

月菴
廣
地

ル 4
3995



門 4
9895
卷

森田友昇著

橫濱地名案內全

明治八年十二月十四日

版權免許

森田藏版



早稲田大學
昭和27.6.6
藏書



又吉

山

心

心

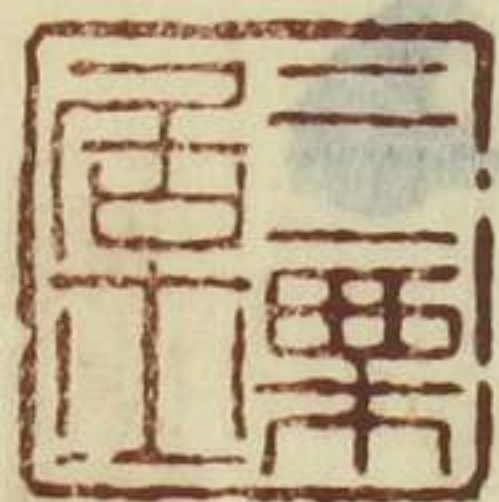
山

山

題
橫濱
不志斯人
祝收拾之
景人
卷



以
第
之



冊造國播遠
近持老矚然
思主亭而今
畫筭地名竅

加以人事借
箴諷斯人庶
筭寸法與經也
是翰煇小龍

鳳鳴之於冬為
毒田友昇

槐山孫序



序



凡史冊之可觀者
不翅詞章而已為美
實係風土之盛與

人才之毅馬耳。

皇國當嘉永年。閩
關橫濱地而許外
國通商矣。爾其且

削山埋海。鑿玉川架。
橋關阡陌。于四方成一
都會焉。蓋所由風
土之學。與人才之毅。考也。

於是。有昇。森田翁。
嘗著。來丁地地理。且
撰八景圖。以冠之。蓋其
為製也。冥。括町。端。

橋名。高。業。而。至。千
八景。以詩。歌。俳。句。收拾
風尚。雅。塵。為一卷。其。曰
橫濱。地名。案內。其。意。

亦勤集。是編一出。則
得男女老幼。心易讀。
率一卷披玩。弗置。
遂致市價騰貴。

固不難言也。而女於人
。有誘引之益。果
何如也。余先無細文。深
翰之才。故特矜其為之。

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, enclosed within a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text in a cursive script, located at the top left of the page. It appears to be a signature or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom left of the page. It appears to be a signature or a short phrase.

伊勢山秋月
 勢山空際聳崢
 嶸遙仰神靈表
 至誠萬古照臨
 清夜月十分秋
 色一輪明

小原芝軒

外都園此船也

さき

あき

いせの

清の月

鳥屋亮信



伊勢山秋月 左南

言一安来此月

月をばと海も

見せしむ

伊勢山と都竹村

まをたよりあき

あき月を伊勢山

柳屋



伊勢山秋月

岩

ま守く白き身は

伊勢山と都竹村の月 為山

為山

為山

為山

本牧晴嵐

招井信堂

春山如笑海心涵
似少文爲畫
談幾箇歸舟
煙樹際夕陽
蒸出忽成嵐

新あつた山まはをれを言まらうと
河に下りゆゆのさびた
鈴木重元

飛と河ら
吹まうまゆく

海心柳佐真



うねるうらら

言らうり

見ええり

又あうり 壺文

本牧也

新まき

まらうり

巽風

佐柳

山も江も 壺文

壺文

壺文

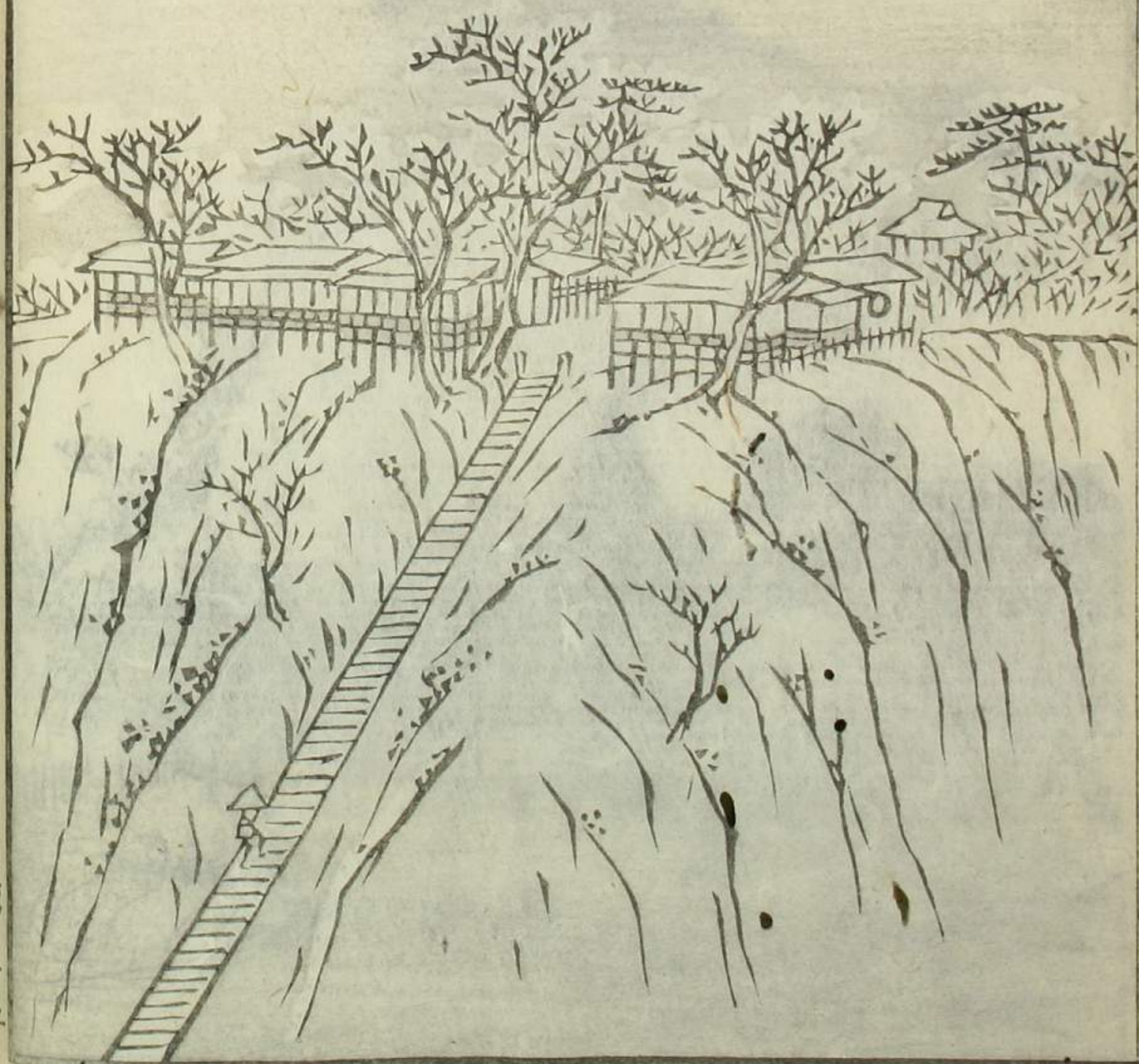
壺文



茂間山

暮雪

下瞰横濱
數萬家粉
牆椒壁競
豪華江風
日暮吹瓊
雪臺上寒
林又著花
諸葛蘭谷



Ysa-Ma-yama

うらよる海

こそぬと力ゆれ

おの海るれ

山のゆれ

神奈垣魯文

あそらまはるる

おの山

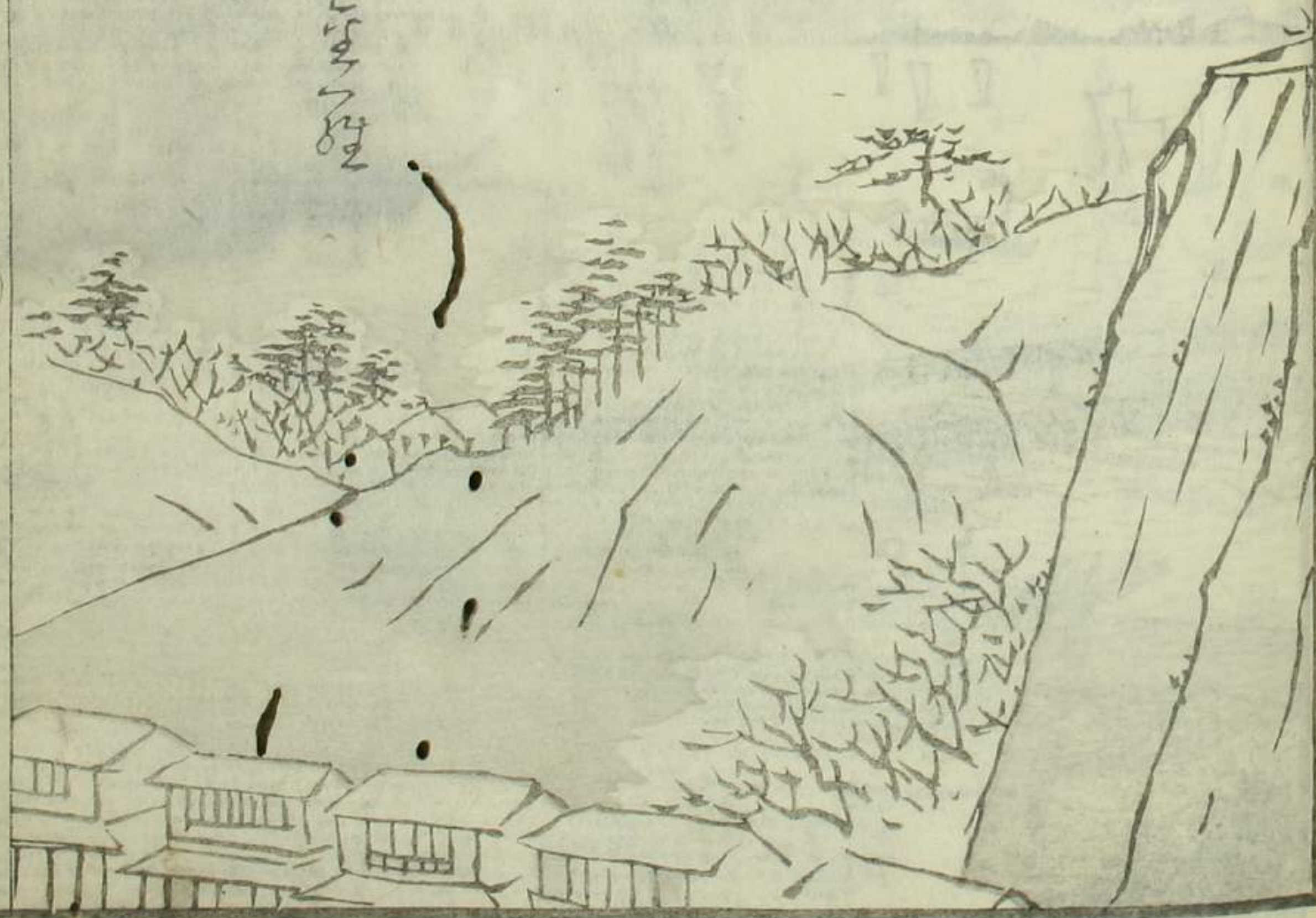
やまのてつ日

さしやう

雪の山

夕希き比良の寺哉

あそらまはるるの山



波止場歸帆

遠山光紫水

生煙潮雪翻

涼返照邊海

口幾聲雷砲

響萬槳來集

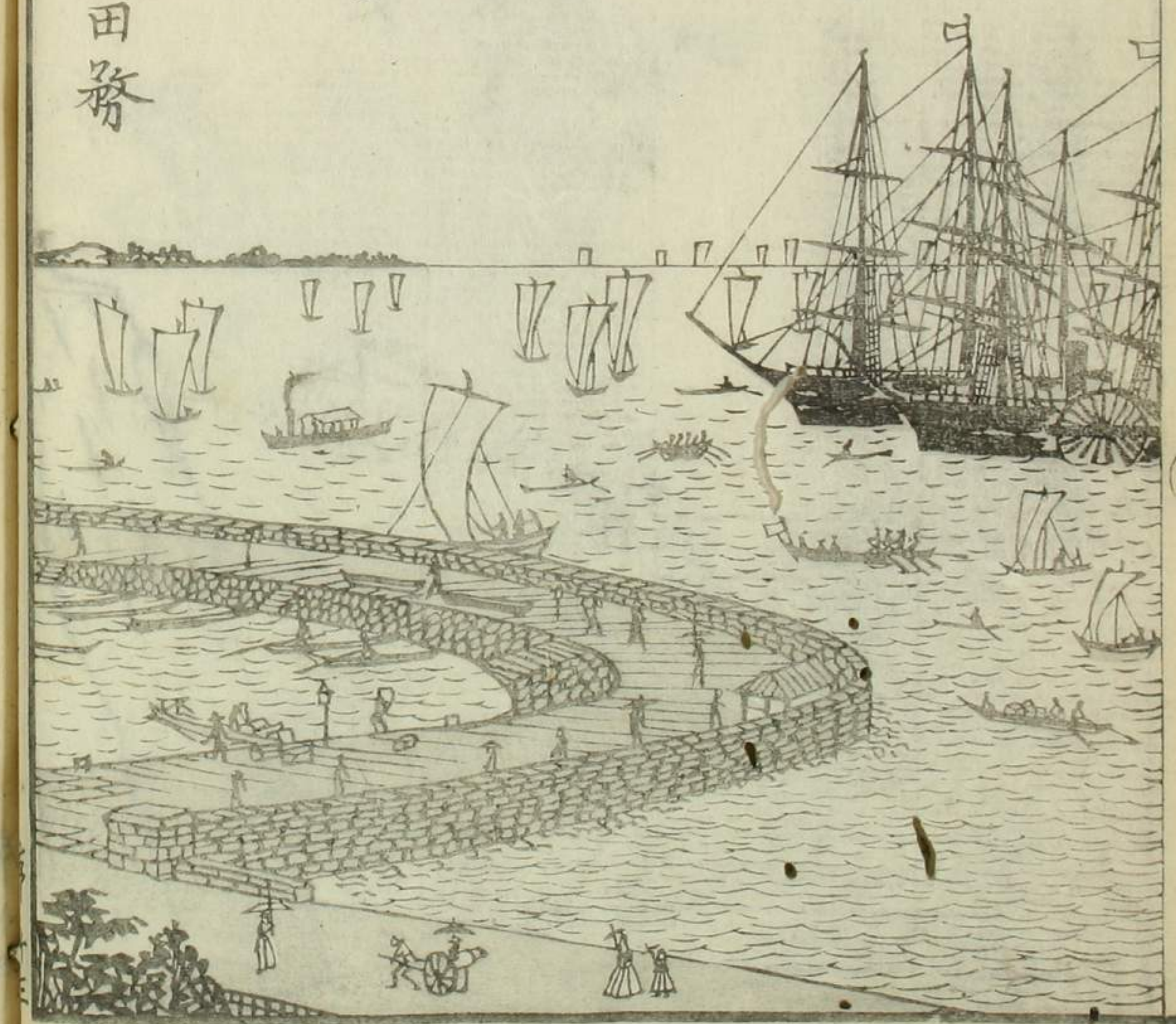
入灣船笹川芳山

美形と入きと小旗と

風力と

お栗とのせま

西此の船三田發



涼帆の影さき舟

涼や波ぬく

入おの

白帆 其柳

まは申

石の峰

き道此入

帆や夏の 柳兆

夕希き

入船を

ちうちん

つうし

圓扇の風 嵐 招



公園夜雨 加藤櫻園
 漠漠霏霏好雨
 過添紅染綠草
 芽多曉來猶帶
 芳園濕花重風
 前百尺柯

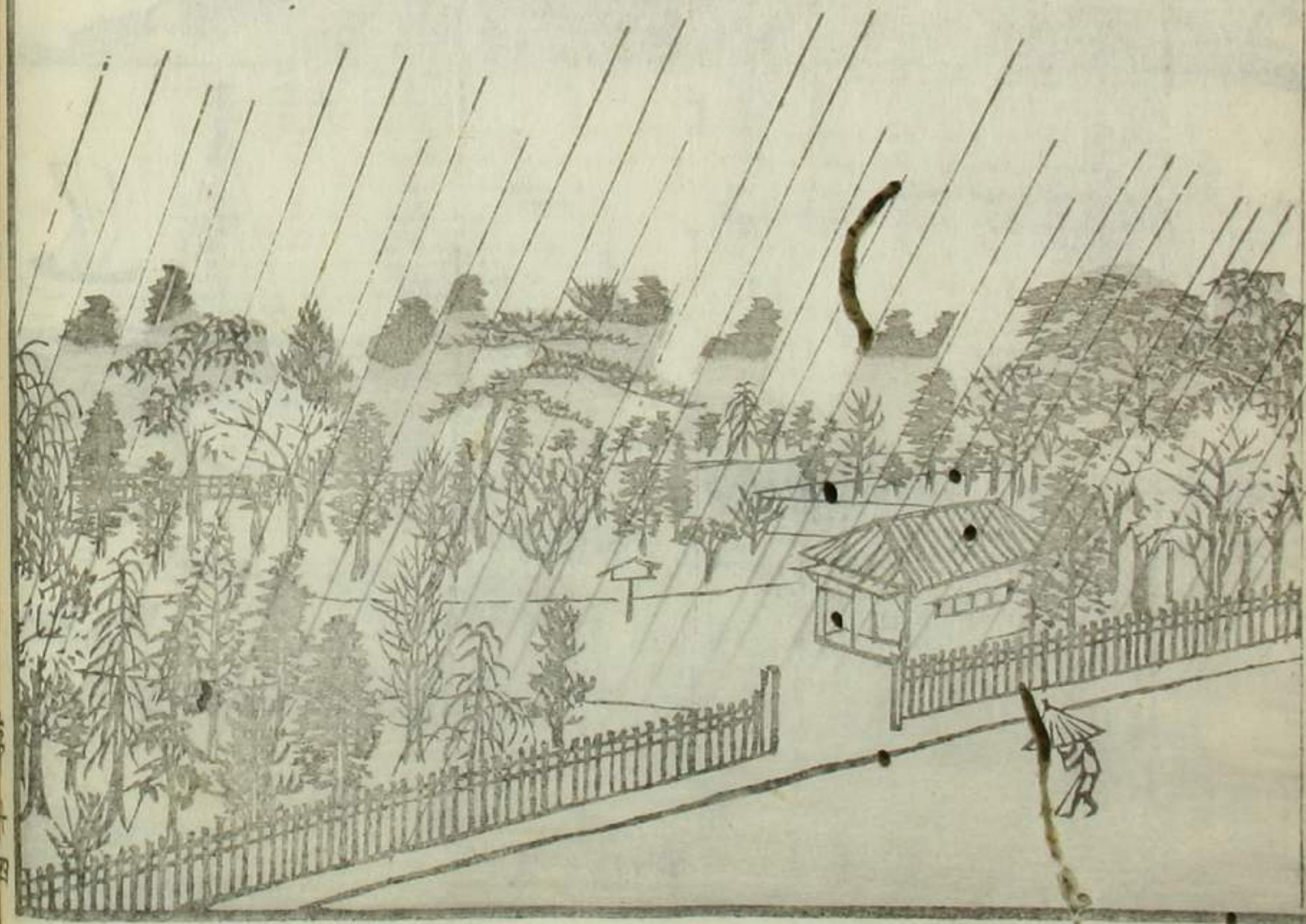
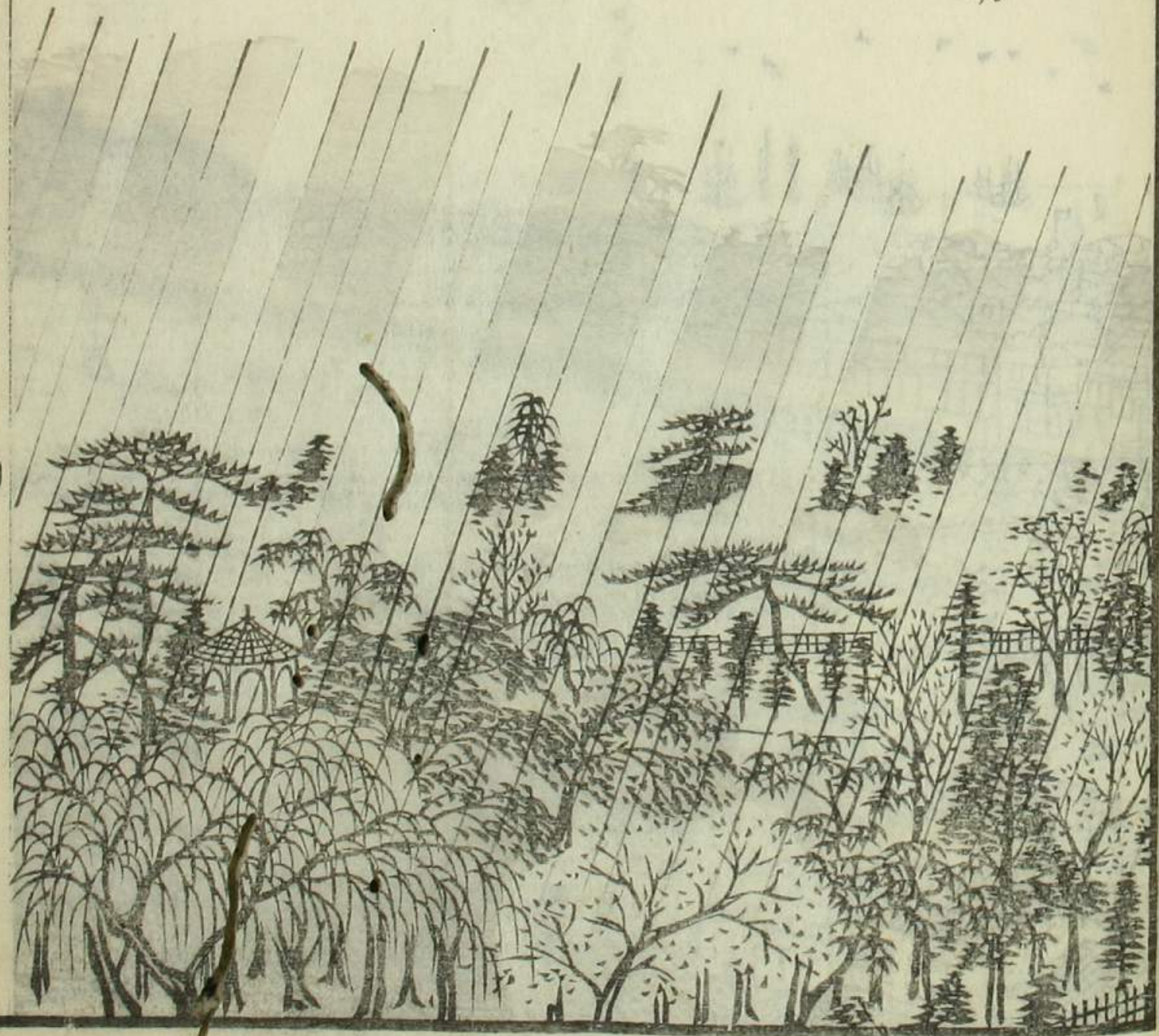
日くくれを 黒川真頼
 人しそりゆく

芝園此

塵をーつたて

春るのゆる

餘の梅も
 芝の香のあり
 春此る
 左助坊
 春あけ樹も少
 園此る 二溪
 此園のりき
 春ありあり 左界
 春あける
 春るの
 春の物 月老
 春園のち



Koyen

鐵橋夕照

大江潮湧水
涵空沿岸垂
揚送冷風客
過鐵橋先小
立一邊涼影
夕陽中市川水哉
中よりさし柳り
新くくをりハ
柳ゆえ人の
傘くくをり
高橋壽世



津風也

柳り

竹こ

すくはれ

さし柳り

柳りの

あしり

一桂

まゆの

さし柳り

さし柳り

あしり

あしりの

あしり

あしりの



吉田落雁 福田清魯

接影翩翩也作

行秋雲散盡夕

陽明江田水落

蒲塘濶聽斷西

風數雁聲

入船の火眉 蘆名盛尊

多す

多す

多す

多す



Yoshi da

多す

多す

多す

多す

多す

多す

多す

長義

多す

多す



北方晚鐘 平塚梅花

寒霜纔收
便放晴峯
頭吐月影
初明鯨鐘
敲出那邊
寺忽入山
風栗列聲

此阿そいそ

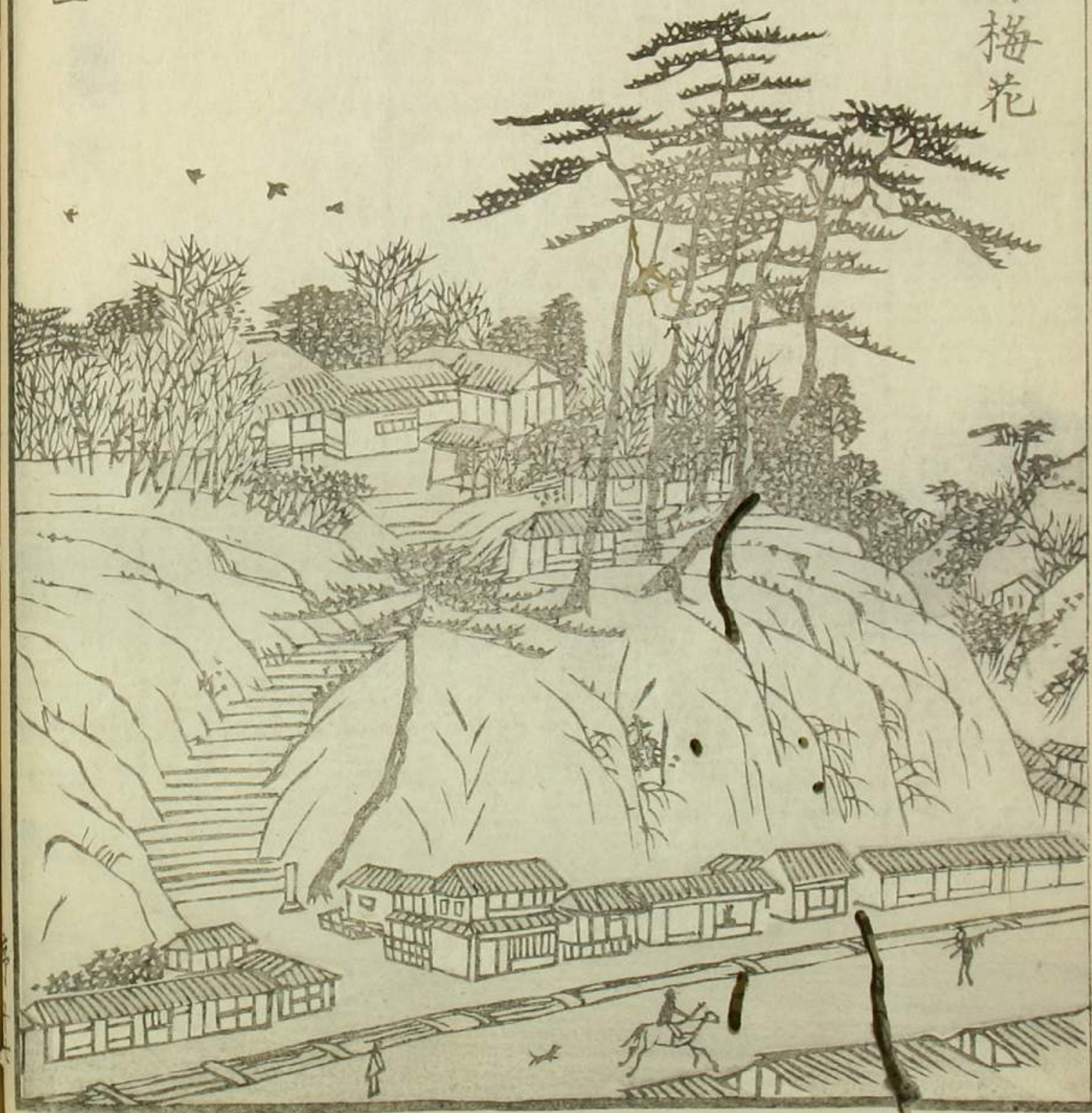
中少くれも

うすのそれ

氷をほり

少の池

か藤祐一



Kita yatai

飛雪初り 古妻

陸も河も

中山風

冬枯夕の

あつと陸あり 雲外

川節や尾花ハ

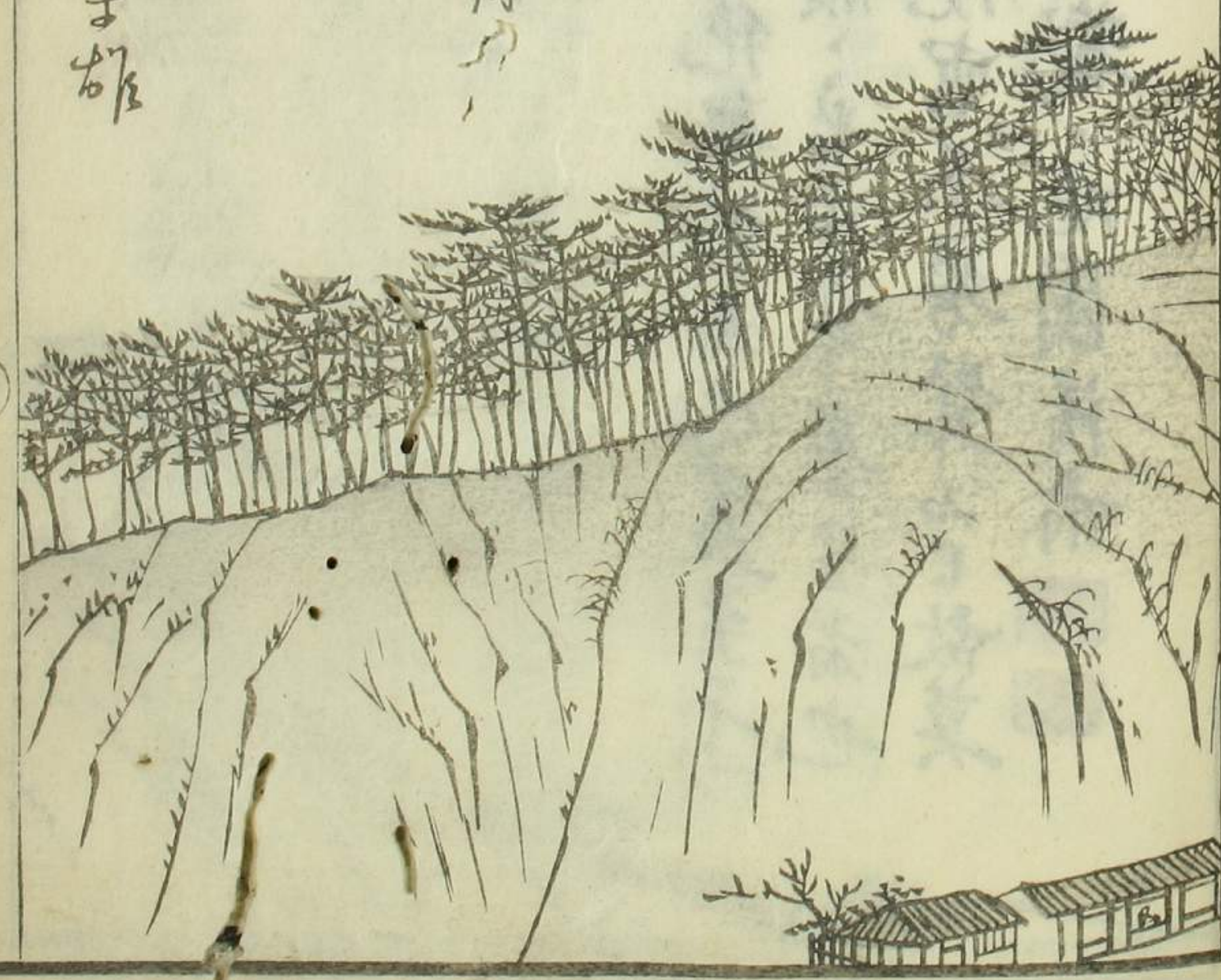
うれそか子のそり

意殊ハ

雪寒

雪よゆきと

陸のそり 三才



梅梅なるるもあはれいふ事
なれど大政のたふさぬは
果のなるるもあはれいふ事
篤あはれなるるもあはれいふ事
ゆゑなるるもあはれいふ事
しるるもあはれいふ事

なれどあはれなるるもあはれいふ事
篤あはれなるるもあはれいふ事
ゆゑなるるもあはれいふ事
しるるもあはれいふ事
なれどあはれなるるもあはれいふ事
篤あはれなるるもあはれいふ事
ゆゑなるるもあはれいふ事
しるるもあはれいふ事

皇あやふと徳をたふすは
やふと徳をたふすは
まふと徳をたふすは

新玉

横濱地名案内

明也久治る出也其乃

日の中をよき横濱

此市乃衛ハ浪橋耳

是凡そ入て程のそ也

叢刃之流本所
南子仲通寫書
と人の呼ぶ舟を
殊更之果を白に
饒阿と世業
海

冢を口月
艘也の舟出船
舟く東西
の多何也
運送の車
新音波の

乃 實 匠 職 外 系 新 系
稽 録 年 の 出 場 少 齋 上 法
人 の 往 來 亦 亦 心 長 古 田
所 也 々 々 々 々 々 々 々 々 々
耳 界 心 の 外 心 亦 生 所

水 也 自 由 玉 川 也 也 也
為 了 了 了 了 了 了 了 了
也 可 々 々 々 々 々 々 々 々 々
申 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
橋 の 乃 々 々 々 々 々 々 々 々

書^{つぎ}ぬ^ま出^あ所^{ところ}所^{ところ}漢^{かん}の^の所^{ところ}
子^こ長^{なが}任^{にん}所^{ところ}氏^し名^な名^な子^こ
福^{ふく}長^{なが}所^{ところ}昔^{むかし}子^こ子^こ福^{ふく}
河^か鐵^{てつ}を^を家^{いえ}也^や内^{うち}田^た所^{ところ}空^{くう}
午^う平^{へい}一^{いち}中^{ちゆう}元^{げん}之^の刀^{たう}橋^{きう}子^こ

子^こ刀^{たう}子^こ子^こ子^こ所^{ところ}支^し那^な
也^や日^{にち}本^{ほん}也^や子^こ自^{みづか}到^{たう}之^の所^{ところ}尔^に
古^こ鼓^こ子^こ之^の國^{くに}乃^{すなは}福^{ふく}子^こ
也^や子^こ自^{みづか}刀^{たう}橋^{きう}子^こ無^む業^{ぎふ}子^こ所^{ところ}
子^こ福^{ふく}本^{ほん}所^{ところ}之^の流^{りゅう}子^こ也^や

和名 橋下 行 水 子 流 所 来
可 海 此 水 葉 橋 此 葉 繁
已 行 福 高 所 在 以 之 御 子
錦 橋 旅 の 衣 の 粒 丸
此 安 や 也 子 新 の ぬ 言 也

美 子 瓦 斯 比 少 子 中 也 掛
卷 卷 思 子 白 皇 大 御 神
高 子 御 積 威 比 万 國 人
輝 之 月 の 子 也 子 橋 子 其 子
神 風 比 伊 勢 所 也 遷

寸四外如之玉崎所宝川
所一百子是官舎子山
の女は咲所石さるぬ所代
其石教所百子新王
万新聖手坂の馬車此

通花も怒る即久人達
脚布如病院也晴る
坂も平以所泥ものほ
之流却もそ水すは
園中何夕答中く藻

冷施ひや多おほ少すく里り主しゅ濑せくく心こ山さんの
備ひも濃こま紫むら心このの花はな津つ江えの
若わ石い少すく踏ふえ多た新あらた玉たま橋はし大おほ
可い橋はしをを願ねがうう芝し生せいのの里り
也や表た玉たまにに糸いと屋や土つち志し也や

体ていも山さん岨しゅも邪よこくく葉はのの神かみ
奈な川がはのの家いえ系けい糸いと津つ川がはのの家いえ
多た架かももたたややくく心こ糸いと末すえのの
辨べん天てん橋はしもも大おほ江え橋はし津つ波なみ
暈うんりり赤せき小せう橋はしのの心こ玉たま也や也や

遠く不慮其の事日舟
知く新仲社生糸今
社や若くは社此之
規則の果魂のき
つれぬる玉語也所此

流り此致深深や方歳
祝子子子子子子子
車は是は織の橋角力芝
居の性うひもお名を人
をて年一の聲提中

昭聖吉田所正目
遠了松原所大主人
の所家
富士の所流名
石所松木所の新将

さきまの潮土松新所
頂斗き、力の橋
の所不代所也
の所急の尾引山
田所八束弓之種福

富所 派多 庭帝 武長
吾所 末吉 所此 末急 此
大免 教一 書畫 三其
所色 字一 路中 ぬ 菊園
界了 子 曉了 咲 今 菊園

書 芝の 花 名 浪 芝
所 難 波の 芥 濱 菘 空
以 吾 如 多 竹 伊 勢 崎 所
是 津 所 や 口 所 山 島
の 屋 如 長 島 所 今 松 振

雲冷色橋かきぬ影此
子竹所老業の月夜
日の生所丹の香如笑
此の如所天津のやまき
殿高富如松の島姑羽衣

所掛一例一の松の枝
所梅の枝所木玉夾
を待當此袖音所氷
尔少了岩井所雪を
禮と奈如柳所之致

まじけの蓬葉所吉園
所の謡花あす
百玉思玉所
鏡の瓶
所さし清水所
初家所

身襖を挿む不勤
清々洋あす
と玉人此
の刃初
仰ぐ駿河所

那久三吉所与事之
著るき裁判所
の元所
廻りて還りて車橋吳
服塗物甚漆うる賞

子人北山本所
の法在在年
志石川所
米西の橋や
谷戸橋成過
北方

上野所樹へ急ぐ羽物
峰や葎のふ代崎の所
そやみみらも真ふれを
瓦少よま二相と三輪
所へ行手を玉函方

此森根岩女瓊木牧
乃塙の齋と十二天誓
瓦成りけの馬競へ袖
摺あふる前田櫛背
耳穿るく製織交あ

國館を特許石職の柱
石の統乃法め則祀る
天主堂幸多杉里此
種の手りゆり申る商社
銀行此種を積る

法字校録を直る此租
税察案の法括る簿
調へ盡ぬ案の八百
万八千餘所概てつる
良き法一横濱此地

めいあ
な案内と存心計たり
孝子

志田文昇著



三本再々雄書



本邦兒童初學ノ書之ヲ漢ニシテハ千字文三字
經アリ之ヲ和ニシテハ都路歌字盡アリ其誦誦
ニ便ニ紀臆ニ易フシテ長名亂ニ裨益スルヤ益亦少
カラス然レ共其歸スル處識字ノ一端ニ過サルニ豈
之ヲ實學ト謂ンヤ 聖朝明治ノ天ヲ開キシヨ
リ成績ノ熙ル言ヲ俟ス學制又一新務メテ虛
ヲ去リ實ヲ取り是ニ於テ乎都路ハ變ニテ地理
小學トナリ三字經ニ換ルニ單語篇ヲ以テス規模宏

恢諸科ノ楷梯具備矣然レ共實有テ華無レ讀
者倦レ易レ況ヤ童蒙ヲヤ然ラハ文字ノ華ハ實
學ノ津梁ト謂フ可也本港ノ老估友昇翁森田
氏俳歌ヲ善スルヲ以テ名アリ頃者一書ヲ著シ題シテ
横濱地名案内ト曰港内ノ街衢橋梁官廨ノ在ル所
商社ノ設ル所社寺製場仔細ニ之ヲ載セテ漏スルナ
ク翁ノ此篇ニ於ル勉メタリト謂フ可シ夫我蜻蛉洲ノ
地球上ニ在ル唯彈丸黒子ヲ見ルノレ況ヤ其一港ニ

於ケル假令精細秋毫ヲ析ツモ其裨益スル所果ニテ
幾許カアル然リト雖坤輿亦一尺土ノ多クニ小以
大ニ及ホレ類ニ觸テ之ヲ長スルニ至テハ彼地學博
士ノ各國山川都府ヲ識スモ豈此篇ト途ヲ殊ニセン
ヤ然則童蒙苟シ地誌學海ノ航艦ヲ此横濱
案内ニ解テ以テ方國ノ地理ニ及ハハ亦西人本土ノ誌史
ヲ先ニスルノ意ニ庶幾ランカ況ヤ此篇文辭簡雅諷
誦ニ便ニシテ能ク地理小學單語篇ノ實事ト都路

歌字盡ノ華文ヲ兼ヌルヲヤ且ツ夫レ國内各地ノ
糸估蠶高本港ニ轉ル者歳ニ幾千人ト云テ知ラス
若此一冊ヲ展讀一過セハ港中ノ地名ヲ辨スルヲ得テ
其便亦大イナリ何啻童蒙ニ資スルト謂ンヤ

明治八年乙亥十有一月日

三鳥外史



福田祿書



跋



古賢有言曰、君子之志於道也、不成
章、不達、又曰、充實、而有光輝、之謂大
矣、余之伯父嘯月菴翁、舉一冊子、見
示之、余小子曰、天下復古、政令一途、
置府于三、開港于五、為縣于六十矣、
於是、出各地人才、開化換眼、文明排
意、著某某卷、而至于使讀者、坐知風

土之盛、洵為太平一創觀也。今伯父著斯卷也、平生所交、遠近君子、稱之、貽以金玉之詠矣、嗚呼、獲此、大增述、作光輝、斐然成章、充實而達者歟、所謂、蒼蠅附驥尾、致千里者也、於余小子、寔堪雀躍、因書伯父之志於道、成章數字、以為親戚子孫寶、
乙亥之冬 海老澤謙齋述



神奈川縣平民

第一大區一小區橫濱南仲通三丁目
四十一番地居住

著述
出版人

森田友昇

